

令和6年度 地域の障害児に対する支援体制の状況及び中核機能としての体制の確保に関する取組の実施状況

児童発達支援センターが担う4つの中核機能を踏まえ、体制確保に関する取組の実施状況を報告します。(令和6年6月1日～令和7年3月31日)

項目番号	基本要件	実施状況
1	市町村及び地域の関係機関との連携体制を確保しているか。	四日市障害保健福祉圏域自立支援協議会に参画しています。
2	幅広い発達段階及び多様な障害特性に応じた専門的な発達支援及び家族支援を提供する体制を確保しているか。	児童発達支援・居宅訪問型児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援の事業を実施しており、発達障害・知的障害・染色体異常・脳性麻痺など多様な障害特性に応じた支援を行っています。 保育士に加え、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・心理担当職員・保健師など多職種を配置し本人支援・保護者支援を行っています。 (令和6年度利用実績(延べ) 児童発達支援(集団) 8,197回(個別) 2,300回、居宅訪問型児童発達支援 31回、放課後等デイサービス(集団) 503回(個別) 1,435回、保育所等訪問支援 96件)
3	地域の障害児通所支援事業所との連携体制を確保しているか。	・歯学部教授を講師に迎えた摂食指導講演会を開催し、市内事業所の従業者の方々にご参加いただきました。 ・自立支援協議会療育部会にて学園個別担当職員(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・心理担当職員)による研修を行い四日市圏域事業所従業者の方々にご参加いただきました。 ・保育所等訪問支援事業所連絡会を開催し、支援の質の向上を目的としてガイドラインを作成しました。
4	インクルージョンの推進体制を確保しているか。	・訪問支援員が、お子さんが生活する保育園・幼稚園・こども園・小学校などを訪問して、集団生活に適応できるような関わり方(工夫)などについて助言や支援を行う保育所等訪問支援事業を実施しています。(令和6年度 支援実施回数(延べ)96回) ・地域の保育所等の支援力向上をはかることを目的として、保育幼稚園課や育ち支援課の研修に講師として参加し、多くの職員(保育士・幼稚園教諭・教員)に参加していただきました。
5	入口としての相談機能を果たす体制を確保しているか。	・ことばや運動の発達や行動、集団生活への適応など、気になることや心配なことについてご相談いただける一般相談を実施しました。 ・通所支援を希望する児童の生活環境や心身の状況等を勘案して、障害児支援利用計画を作成し、適切なサービスが利用できるよう支援する障害児相談支援・計画相談支援事業を実施しました(令和6年度 計画作成件数741件、モニタリング実施件数(延べ)1,604件)。支援にあたっては四日市市こども発達支援課・こども家庭センターと連携をとっています。
6	地域の障害児支援体制の状況及び基本要件に関する取組の状況を年に1回以上公表しているか。	基本要件に定める取組の状況については、本様式をもって公表します。
7	自己評価の項目について、外部の者による評価を概ね年に1回以上受けているか。	年2回開催している第三者評価委員会において、実施事業・自己評価の項目についてご評価いただいています。
8	従業者に対する年間の研修計画を作成し、当該計画に従い、1年に1回以上研修を実施しているか。	令和6年度職場研修計画書に従い、外部講師を招いての研修(4回実施)に加え、個別支援担当職員(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・心理担当職員)、管理栄養士による園内研修を実施しました。